

第32回全国川サミット in 旭川

審議役 土屋 信行
水循環・まちづくり・防災グループ 次長 風間 聡

1. はじめに

全国川サミットは、川がもたらす恵みや人々の関りを生かしながら川と共存するまちづくりを共に進めることを目的に、全国の自治体が『全国川サミット連絡協議会』を組織し、持ち回りで開催しています。平成4年の初回から現在までに32回開催されています。令和6年10月18、19日に北海道の旭川市にて、“第32回全国川サミット in 旭川”として全国27自治体が参加し開催されました。

2. 川サミットの開催テーマ

旭川市は、“川のまち”と呼ばれ、石狩川をはじめ、その支流である忠別川や美瑛川など136本の河川が流れており、流水は飲料水や農業用水、流雪用水として活用されています。河川空間は市民の憩いの場となっているほか、サイクリング、マラソンのコースや冬まつりの会場になるなど、スポーツやイベント、防災環境教育の場となっています。そのため、今回の全国川サミットの開催テーマは、今回の川サミットを機に“かわ”と“まち”とそれに関わる人々の魅力を発信し、川への愛着を育ていけるように願って“川とともに生きる～かわとまちづくり～”とされました。

3. プログラム

一日目は、旭川駅周辺かわまちづくりの一部である“北彩都ガーデン”の見学を行うとともに、行政による全国川サミット連絡協議会総会や国土交通省河川環境課長の講演、参加自治体首長による各地での“かわ”と人々の関わりや“まちづくり”の取り組みの紹介等が行われました。



二日目は、一般参加のもと、地元旭川市の北海道教育大学付属小学校での『「川とともに生きるまちづくり」を学校カリキュラムに位置付けた取り組み』について、小学生の活動発表等が行われました。また、旭川市のかわまちづくりについてのミズベリング活動団体からの紹介、環境省釧路自然環境事務所からの『自然を生かした地域づくりへネイチャーポジティブという考え方』について、国土交通省北海道開発局建設部から『第9次北海道総合開発計画と北海道の流域治水』についての講演が行われました。



川サミットの最後には、参加自治体首長による、流域に住む人々に恵みをもたらし続ける川の大切さを再認識するとともに川とまちが一体となってお互いに活かしながら深化し続けることを誓う共同宣言が発表されました。

4. おわりに

今回の全国川サミットの開催地である旭川市の旭川駅前の北彩都ガーデンは、まちの中心に位置しており、市民の憩いの場として、街の表玄関として位置付けられており、まさに“かわ”と“まち”とそれに関わる人々の魅力を全国に発信することができました。開催にあたってご尽力いただいた旭川市をはじめとする関係者の皆様に深く感謝いたします。